

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11138

研究課題名（和文）要介護への進展を予防するソーシャルキャピタルの影響の解明と介入モデルの開発

研究課題名（英文）Social capital and prevention of disability; development of intervention model

研究代表者

樺山 舞 (Mai, Kabayama)

大阪大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：50635498

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で行った一連の研究結果により、介護予防事業における介入では、身体的、社会的、精神的側面が複合的に影響することによって、より効果が出ることが示された。具体的には、1）フレイル認知度はICT利用と関連し、社会参加によってより促進されること、2）通いの場への継続的参加は身体面のみならず社会活動の活発化へも影響していること、3）認知機能と孤独感の関連がICT活用により抑制される可能性があることなどが明らかとなった。さらに、年代や地域、そして性別によって社会的要因が身体機能へ与える影響が異なったことから、それぞれ特徴に応じたツール等による包括的な介入方策の重要性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果より、介護予防事業における介入では、身体的、社会的、精神的側面が複合的に影響することによって、より効果が出る可能性が示唆された。また、年代や地域、そして性別によって社会的要因が身体機能へ与える影響が異なっていたことから、それぞれ特徴に応じたツール等を用いた包括的な介入方策の重要性が示された。今後の地域特徴に応じた効果的なフレイル予防・介護予防対策の推進根拠として意義のある成果が得られたと考える。

研究成果の概要（英文）：The results of this study have shown that interventions in long-term care prevention projects are more effective when the physical, social, and mental aspects are combined. Specific findings from the studies include: 1) literacy about frailty is associated with ICT use, and it is promoted by social participation, 2) continued participation in older people's gathering in the community affects not only physical aspect but also social activity, and social interaction influences to continued participation, and 3) ICT utilization may suppress the relationship between cognitive function and loneliness. Furthermore, the effects of social factors on physical function differed by age, region, and gender, indicating the importance of comprehensive intervention measures using tools and other means tailored to the characteristics of each region and individual.

研究分野：地域看護学

キーワード：介護予防 地域在住高齢者 ソーシャルキャピタル 社会参加

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ソーシャルキャピタル(以下; SC)と呼ばれる、社会の絆や結束から生み出される資源が、その地域の人々の健康を守ることが明らかにされてきた。少子高齢化が急速に進む中、高齢者の健康の維持・向上、要介護状態を予防するためのサービス提供は、担い手となる行政または民間サービスにおいて、その量や資源に限界がある。このような背景においては、地域社会の互助性を最大限に活用する施策が重要となる。地域の介護予防を推進する中心的役割を担う保健師がその公衆衛生看護活動において、SCの醸成と活用をいかに行うかの方策を具体的に検討する必要がある。しかしこれまでにSCの健康への作用経路、及びSCを醸成・活用して地域へ介入する具体的な方法の検証はほとんどなされていない。また我々は過去に、地域住民を対象としたSCと健康に関する研究によって、SCには類型があること、およびその健康との関連性の違いについて検討し報告してきた。これら先行検討を踏まえると、多様な対象者・地域背景やSC醸成の段階によって保健師の介入の効果や方法は異なると考えられる。

以上より、域包括ケアシステムを構築し社会全体で支えあう地域づくりが求められる中、特にSCの醸成と活用を地域特性にあわせてどのように効果的に活用して介護予防対策を実践するかということが重要であり、そのためのエビデンスの確立が求められている。健康寿命の延伸、健康格差の縮小を目指した健康な地域づくりの観点からも、SCが健康や要介護の予防に及ぼす効果を客観的指標により明らかとするとともに、SCの対象背景や地域性に沿った介入モデルを確立することが望まれる。

2. 研究の目的

本研究は、SCは健康(介護予防)に具体的にどのような影響を及ぼすのかについて明らかにすることで、SC醸成と活用を通じた公衆衛生看護活動の介入モデルを開発することを目的とする。具体的には、地域在住高齢者において、まず、SCが高齢者の健康に及ぼす影響を客観的指標を用いて明らかとする。さらに、地域での介護予防活動の実践の場においてSCが及ぼす効果を検証し、SCを醸成・活用する効果的な介護予防介入方策を検討する。

本研究成果から得られた知見を通じて地域での効果的な介護予防を推進し、地域包括ケアシステムをより充実した有効な形で実現することを目指すものである。

3. 研究の方法

地域在住高齢者を対象として、調査参加者へSCおよび社会活動に関する質問紙調査(郵送自記式及び会場対面聞き取り)を実施した。健康指標として、身体計測や採血および認知機能や老年症候群に関する内容のデータ収集を行った。会場調査では、縦断データを得て経年変化を把握し、SCと健康(特に要介護に影響を及ぼす老年症候群)との関連を検証した。また自治体現場におけるSC醸成および活用の実践効果を検討する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行により高齢者への外出自粛要請や地域の社会参加の場である通いの場の断続的な中止が発生した。そのため、介入を実践して検証することは困難となったが、一方で、コロナ流行の影響により高齢者の孤立化や社会参加の低下が起これり、フレイル状態の進行等が懸念される等、社会背景が大きく変容したため、これらに対応するための方策である、ICTの利活用と健康状態および孤独感、社会参加の観点を調査に盛り込み研究を進めた。さらにSC醸成のプロセスと介護予防効果を質的に捉えて検討結果を考察するため、自治体において介護予防事業を担当し実践する保健師に対してヒアリングを行った。最終的に、効果的な介護予防の介入モデル開発を目指し、各研究成果から得られた結果全体を統合した。

4. 研究成果

(1) 地域特徴の分析

調査対象地域における高齢者を取り巻く資源等の地域差の特徴について調査し整理を行った。市町村の人口規模によって、自治会加入率、通いの場へ的高齢者の参加割合、社会参加する際の主な移動手段等に大きな差異が認められた。

(2) 特徴の異なる地域コミュニティ(通いの場)における介護予防活動の効果

通いの場における介護予防活動において、その効果を身体面・社会面を含め多角的に検証した。大阪府下の都市部(人口約40万人)と農村部(人口約1万人)において、通いの場で定期的実施された介護予防体操効果を客観的な測定指標を用いて縦断的に分析した。地域性に関わらず、両自治体ともに、身体機能の向上効果が有意に認められた。以下に、農村部における結果の詳細を示す。

研究対象者は、本研究期間に通いの場に参加していた1,028人(女性766人(74.5%))であった。平均年齢は72.6±8.0歳、506人(49.2%)が前期高齢者であった。1年間の前後データが揃っている464名において、体力測定での測定値の変化について、初回と1年後を比較したところ、5m間最大歩行、Time Up and Go Test、5回立ち上がり時間、握力の4項目すべてで有意な向上を認めた。社会活動については、半年後、1年後に、老人クラブ、ボランティア活動などへの参加割合が増加していた。通いの場への定期的参加により、身体機能の維持改善のみならず、社会活動も活発化する可能性が示唆された。

(3) コロナ禍におけるSC指標と健康指標(フレイル状態)の関連検討

地域在住高齢者への郵送調査によりICT活用状況の実態も含めたSC指標(社会参加状況)と健康状態の関連の検討を行った。分析の結果、ICTを利用していた高齢者は約7割認められた。利用内容は、クラスター分析の結果「社会的利用(人との対話)群」「情報収集利用群」「ほぼ利用なし群」に分類された。これら利用内容と心身機能との関連を検討したところ、女性における社会的利用群はフレイル該当割合が低いことが明らかとなり、社会的なICT利用がフレイルを予防する方向に関連することが示唆された。また、ICT活用とフレイルの関連を検討したところ、孤立したり孤独感を感じている80代以降の後期高齢者においては、ICT利用が認知機能低下を抑制する関連を示す知見を得た。

(4) 通いの場への継続的な参加による身体機能指標とSC指標(社会参加)との関連の検証

通いの場への定期的参加の効果を検証するため、介護予防事業に参加していた者のうち2018年および1年後の2019年の両年に測定を行なった391名を分析した。事業への参加回数は男女ともに平均約30回/年であった。参加回数多群/少群間に分けて比較すると、女性では参加回数が多い群の方が少ない群に比べてTUG速度が改善した者の割合が高く、事業参加のメリットとして人との交流の機会増加をあげた者の割合が高く認められた($p<0.05$)。男性では参加頻度による差は見られなかった。女性においては、通いの場での介護予防事業参加頻度が高いことが身体機能向上につながる可能性、また人との交流の機会があることが、事業参加の継続を促進している可能性が示唆された。高齢者の健康行動に影響する要因をインタビューにて質的に検討した結果においては、家族、近隣とのネットワークや情報アクセスが重要であることが明らかとなった。高齢者の介護予防事業においては、本人の動機付けや継続において、人とのつながりが重要な要素となることが示唆された。

(5) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動量の変化とその関連因子についての検討

新型コロナウイルス感染症拡大により、地域の通いの場の多くが中断された状況において、本研究目的であるソーシャル・キャピタルを活用した地域特徴に応じた介護予防介入について検討するため、都市部と非都市部において地域在住高齢者に郵送調査を実施し、自粛期間中(4、5月頃)の活動量、やる気の低下等について尋ねた。活動量減少について年齢コホート・地域別に集計し、活動量減少に関連する要因についてロジスティック回帰分析を用いて検討した。有効回答が得られた1,785名(回答率75.2%)のうち、分析対象者は70歳コホート753名、80歳コホート496名、90歳コホート293名の計1,542名であった。活動量が減少したと回答したのは70歳で68.1%、80歳で65.3%、90歳で56.0%、地域別には都市部で69.4%、非都市部57.7%であった。活動量減少には、やる気が起きないことと新型コロナウイルスへの不安が強く関連したとともに、70歳・80歳では都市部で活動量が減少した者の割合が高く認められた。90歳コホートでは活動量減少への地域の影響は小さかったが、経済状況にゆとりがないことが有意に関連していた。活動自粛に伴う影響は年代、地域で異なり、コロナ禍等生活不

活発による健康への悪影響は都市部においてより喫緊の課題であり対策の必要性が高いことが示唆された。

(6) 介護予防活動の具体的方策の検討

ソーシャル・キャピタルが健康に影響する経路のひとつとして、円滑な情報の伝達が報告されている。今回、高齢者の ICT 利用とフレイルの認知(フレイルという言葉の意味知っているかどうか)の関連における社会参加の影響を分析した。まずは、フレイルという言葉の認知は、地域によって割合に有意な差があることが明らかとなった。また、本人がフレイル状態であるほどに、社会参加および ICT 利用の両方をしていない人の割合が高くなっていった。多変量解析の結果、フレイルの認知度に関連する要因は、性別、年代、健康状態により異なり、インターネット利用のみでも認知度が高まる場合もあるが、社会参加をしていることでより促進されることが明らかとなった。現在、介護予防対策の柱として、多くの自治体でフレイル予防事業が推進されており、フレイルという言葉や概念の理解や啓発を促進することも重要な活動である。本研究結果より、フレイル予防と目指して、その理解を広める際には、社会参加の促進と両輪を進めることや、対象者の年齢や性別等、その特徴に応じたツールの活用が効果的であることが示唆された。

(7) 総括

要介護リスクの高いフレイルは、身体面のみならず、精神面、社会面の複合的概念である。本研究で行った一連の研究結果では、これらの側面が相互に重なり合うことによって、より介護予防事業の効果が高まることが示された。ただし、年代や地域、そして性別によって社会的要因が身体機能へ与える影響が異なっていたことから、それぞれ特徴に応じたツール等の介入方策が重要であることが示唆された。本研究では、新型コロナウイルス感染症の流行により、健康危機下における高齢者の行動変容の地域・年代による特徴も明らかとなった。本研究により、今後の地域特徴に応じた効果的なフレイル予防・介護予防対策の推進根拠として意義のある成果が得られたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 Li Y, Godai K, Kido M, Komori S, Shima R, Kamide K, Kabayama M	4. 巻 22
2. 論文標題 Cognitive decline and poor social relationship in older adults during COVID19 pandemic: can information and communications technology (ICT) use helps?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Geriatr	6. 最初と最後の頁 375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-022-03061-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kimura Y, Akasaka H, Takahashi T, Yasumoto S, Kamide K, Ikebe K, Kabayama M, Kasuga A, Rakugi H, Gondo Y	4. 巻 19
2. 論文標題 Factors Related to Preventive Behaviors against a Decline in Physical Fitness among Community-Dwelling Older Adults during the COVID-19 Pandemic: A Qualitative Study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health	6. 最初と最後の頁 6008
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph19106008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Li Y, Kabayama M, Tseng W, Kamide K	4. 巻 100
2. 論文標題 The presence of neighbours in informal supportive interactions is important for mental health in later life	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104627 ~ 104627
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2022.104627	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Klinpuktan N, Kabayama M, Godai K, Gondo Y, Masui Y, Akagi Y, Srithumsuk W, Kiyoshige E, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Ikebe K, Yasumoto S, Ogawa M, Inagaki H, Ishizaki T, Arai Y, Rakugi H	4. 巻 95
2. 論文標題 Association between physical function and onset of coronary heart disease in a cohort of community-dwelling older populations: The SONIC study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104386 ~ 104386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2021.104386	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamide K, Tseng W, Kabayama M	4. 巻 7
2. 論文標題 Health Promotion for Older Population in Japan: Importance of Preventive Care and Successful Assisted Living	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Gerontology & Geriatrics: Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.26420/gerontolgeriatrres.2021.1061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 呉代華容、樺山 舞、神出 計、野上素子、春日彩花、安元佐織、増井幸恵、赤坂 憲、池邊一典、石崎達郎、樂木宏実、権藤泰之	4. 巻 58
2. 論文標題 地域在住後期高齢者における新型コロナウイルス感染症拡大に伴る活動量の変化とその関連因子についての検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 591 ~ 601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3143/geriatrics.58.591	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 トシンメイ、樺山 舞、黄 雅、赤木優也、呉代華容、清重映里、畑中裕美、橋本澄代、菊池 健、神出計	4. 巻 58
2. 論文標題 地域通いの場に参加する高齢者におけるフレイルの実態といきいき百歳体操効果の縦断的検討 ~ 大阪府能勢町いきいき百歳体操効果検証 ~	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 459 ~ 469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3143/geriatrics.58.459	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 崔 煌、権藤恭之、増井幸恵、中川 威、安元佐織、小野口航、池邊一典、神出 計、樺山 舞、石崎達郎	4. 巻 43
2. 論文標題 高齢者の社会参加と主観的幸福感 - 近隣ソーシャルキャピタルとの関連に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本老年社会科学会	6. 最初と最後の頁 5 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Srithumsuk Werayuth, Kabayama Mai, Godai Kayo, Klinpuktan Nonglak, Sugimoto Ken, Akasaka Hiroshi, Takami Yoichi, Takeya Yasushi, Yamamoto Koichi, Yasumoto Saori, Gondo Yasuyuki, Arai Yasumichi, Masui Yukie, Ishizaki Tatsuro, Shimokata Hiroshi, Rakugi Hiromi, Kamide Kei	4. 巻 25
2. 論文標題 Association between physical function and long-term care in community-dwelling older and oldest people: the SONIC study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12199-020-00884-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Klinpuktan Nonglak, Kabayama Mai, Gondo Yasuyuki, Masui Yukie, Akagi Yuya, Srithumsuk Werayuth, Kiyoshige Eri, Godai Kayo, Sugimoto Ken, Akasaka Hiroshi, Takami Yoichi, Takeya Yasushi, Yamamoto Koichi, Ikebe Kazunori, Yasumoto Saori, Ogawa Madoka, Inagaki Hiroki, Ishizaki Tatsuro, Rakugi Hiromi, Kamide Kei	4. 巻 20
2. 論文標題 Association between heart diseases, social factors and physical frailty in community dwelling older populations: The septuagenarians, octogenarians, nonagenarians investigation with centenarians study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 974 ~ 979
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kabayama Mai, SONIC study group, Kamide Kei, et al.	4. 巻 43
2. 論文標題 The association of blood pressure with physical frailty and cognitive function in community-dwelling septuagenarians, octogenarians, and nonagenarians: the SONIC study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Hypertension Research	6. 最初と最後の頁 1421 ~ 1429
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41440-020-0499-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Srithumsuk Werayuth, Kabayama Mai, Gondo Yasuyuki, Masui Yukie, Akagi Yuya, Klinpuktan Nonglak, Kiyoshige Eri, Godai Kayo, Sugimoto Ken, Akasaka Hiroshi, Takami Yoichi, Takeya Yasushi, Yamamoto Koichi, Ikebe Kazunori, Ogawa Madoka, Inagaki Hiroki, Ishizaki Tatsuro, Arai Yasumichi, Rakugi Hiromi, Kamide Kei	4. 巻 20
2. 論文標題 The importance of stroke as a risk factor of cognitive decline in community dwelling older and oldest peoples: the SONIC study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-020-1423-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yano Tomoko, Kabayama Mai, Kamide Kei	4. 巻 57
2. 論文標題 Associations of weight loss and low serum albumin with death in community-dwelling elderly and related factors -A systematic review-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nippon Ronen Igakkai Zasshi. Japanese Journal of Geriatrics	6. 最初と最後の頁 60～71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3143/geriatrics.57.60	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計15件(うち招待講演 0件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Kabayama M, Kamide K
2. 発表標題 The importance of multidisciplinary for the prevention of CVD in Japan
3. 学会等名 The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kabayama M, Wada A, Godai K, Kido M, Hashimoto S, Higashi M, Hatanaka H, Kikuchi T, Dodo T, Tabara Y, Asayama K, Okubo T, Rakugi H, Kamide K
2. 発表標題 The health awareness and spillover effects of a community intervention by home blood pressure measurement: Nose Study.
3. 学会等名 The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樺山 舞、吉田寛子、呉代華容、神出 計
2. 発表標題 フレイルと後期高齢者健診 通いの場における後期高齢者質問票の活用
3. 学会等名 第63回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 榊山 舞、吉田寛子、神出 計
2. 発表標題 高齢者の低栄養対策と減塩
3. 学会等名 第9回臨床高血圧フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野上素子、榊山 舞、呉代華容、赤坂 憲、池邊一典、安元佐織、石崎達郎、権藤恭之、樂木宏実、神出 計
2. 発表標題 地域在住高齢者における経済状況別に検討した人のつながりと認知機能との関連
3. 学会等名 第32回日本老年医学近畿地方会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 畑中裕美、榊山 舞、木村ありさ、橋本澄代、吉田寛子、中村祐子、小林慶吾、呉代華容、菊池 健、神出 計
2. 発表標題 能勢町の通いの場における地域包括による支援と参加者のフレイルの実態
3. 学会等名 第32回日本老年医学近畿地方会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村祐子、榊山 舞、呉代華容、赤坂 憲、権藤恭之、新井康通、増井幸恵、石橋達郎、樂木宏実、神出 計
2. 発表標題 地域在住高齢者における脂質異常症と身体的フレイル発症との関連における縦断解析：SONIC研究
3. 学会等名 第32回日本老年医学近畿地方会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東万紀子、樺山 舞、木村ありさ、橋本澄代、木戸倫子、呉代華容、菊池 健、疋田晃浩、田原康玄、神出 計
2. 発表標題 能勢町保健事業への参加経路の年代別特徴－新型コロナワクチン接種会場における取組
3. 学会等名 第32回日本老年医学近畿地方会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前山友理恵、樺山 舞、呉代華容、赤坂 憲、権藤恭之、増井幸恵、新井康通、石崎達郎、樂木宏実、神出 計
2. 発表標題 地域在住高齢者における糖尿病の血糖コントロールと精神的健康状態との関連
3. 学会等名 第32回日本老年医学近畿地方会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林慶吾、呉代華容、樺山 舞、赤坂 憲、権藤恭之、増井幸恵、新井康通、石崎達郎、樂木宏実、神出 計
2. 発表標題 地域在住高齢者の高血圧とうつ傾向の関連性の検討
3. 学会等名 第63回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉代華容、樺山 舞、神出 計、赤坂 憲、安元佐織、増井幸恵、池邊一典、石崎達郎、樂木宏実、権藤恭之
2. 発表標題 地域在住高齢者における新型コロナウイルス感染症予防のための活動自粛に伴う主観的な心身機能の変化
3. 学会等名 第63回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 崔 煌、 権藤恭、増井幸恵 中川 威、 安元佐織、 小野口航、 池邊 一典、 神出 計、 樺山 舞、 石崎 達郎
2. 発表標題 高齢者における社会参加、ソーシャル・キャピタル、主観的幸福感の関連
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Li Y , Godai K , Kido M , Kamide K , Kabayama M
2. 発表標題 Interaction Effect of ICT use and Loneliness on Cognitive Decline under COVID-19 .
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Klinputdan N, Kabayama M, Akagi Y, Srithumsuk W, Kiyoshige E, Sugimoto K, Ikebe K, Gondo Y, Rakugi H, Kamide K.
2. 発表標題 The relationship between heart diseases and physical frailty in community-dwelling old population;SONIC study.
3. 学会等名 EAFONS2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Srithumsuk W, Kabayama M, Akagi Y, Klinputdan N, Kiyoshige E, Godai K, Sugimoto K, Ishizaki T, Gondo Y, Rakugi H, Kamide K.
2. 発表標題 Factors Associated with Cognitive Decline Among Japanese Community Dwelling Older People -SONIC study.
3. 学会等名 EAFONS2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	神出 計 (KAMIDE KEI) (80393239)	大阪大学・大学院医学系研究科・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------